

## 若狭湾で大量に漁獲されたコシナガについて

中 村 泉

### Big Catches of Longtail Tuna in Wakasa Bay, Japan Sea

Izumi Nakamura

コシナガ *Thunnus tonggol* (Bleeker) は Bleeker (1851) によってバタビア海からはじめて記録されて以来、インド・オーストラリアから東南アジア・台湾近海にかけて分布していることが知られているが、日本近海からは正確な漁獲記録がほとんどない。多くの研究者はコシナガは「南日本や西日本にまれに」あるいは「九州西海岸にのみ」見られるにすぎないとしている (Kishinouye, 1923; Jordan and Hubbs, 1925; Jordan and Evermann, 1926; 蒲原, 1941; 中村, 1949; 松原, 1955)。岸上 (1915) は長崎より東京日本橋魚市場に送られて来た1個体にもとづいて *T. rarus* を発表した。これは *T. tonggol* の異名であり、したがってこれが日本近海からのコシナガの唯一の具体的な漁獲記録である。

昨秋コシナガが若狭湾内のイワシ大敷網に大量に入り、舞鶴魚市場と宮津魚市場に水揚げされたので、ここに簡単にその状況を報告する。これをコシナガと査定した根拠の主なもの、(1) 吻端から第二背鰭および臀鰭までの距離が短い、(2) 特徴的な体側の斑紋 (Fig. 1)、(3) 嗅房の縁辺部に肉質隆起がなく、嗅板は発達し縁辺に切込みがある、(4) 鰓は痕跡的、(5) 肝臓の右葉は細長く、肝臓の腹面に脈管条がないことなどである。1968年9月3日と9月24日に若狭湾内の栗田田井のイワシ大敷網に尾叉長 50 cm 前後のコシナガがそれぞれ約 1400 尾と 1000 尾入った。同じく9月4日には栗田田井の近くの小田宿野のイワシ大敷網に同大のコシナガ9尾が入った。この9尾のうち4尾を入手することができた (標本番号 FAKU 41940-41943, 尾叉長 48.6 ~ 51.4 cm; Fig. 1)。

従来、コシナガの日本近海における正確な漁獲記録がなかったのは、はたしてコシナガの日本近海への回遊が少なかったためか、他のマグロ類と混同していたために記録がなかったのか、明確でない、というの

は、マグロ類は尾叉長 50~60 cm までは各種類が非常によく似ていて同定を誤る場合が少くないからである。とくに南日本の太平洋側ではこの大きさのキハダ *T. albacares* およびクロマグロ *T. thynnus* とコシナガを、西日本の日本海側ではクロマグロとコシナガを混同している可能性が大きい。詳細についてはおって報告する。

#### 文 献

- Bleeker, P. 1851. Over eenige nieuwe geslachten en soorten van makreelachtige visschen van den Indischen Archipel. Nat. Tijds. Ned. Ind. 1: 341-372.
- Jordan, D.S. and B.W. Evermann. 1926. A review of the giant mackerel-like fishes, tunnies, spearfishes and swordfish. Occ. Pap. Calif. Acad. Sci. 12: 1-113, fig. 1, pls. 1-20.
- Jordan, D.S. and C.L. Hubbs. 1925. Record of fishes obtained by David Starr Jordan in Japan, 1922. Mem. Carnegie Mus. 10(2): 93-346, fig. 1, pls. 5-12.
- 蒲原稔治. 1941. 鯖群 (鱈型類を除く). 日本動物分類 15-2(5): 1-8, 1-225, figs. 1-102.
- 岸上鎌吉. 1915. サバ・サハラ・シビ類の研究. 水学報, 1(1): 1-24, fig. 1.
- Kishinouye, K. 1923. Contribution to the comparative study of the so-called scombroid fishes. J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo. 8(3): 298-475, figs. A-Z, pls. 13-34.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索 I. 石崎書店, 東



Fig. 1. *Thunnus tonggol* (Bleeker) 48.6 cm in fork length (FAKU 41940).

中村: 若狭湾で大量に漁獲されたコシナガについて

京. i-xi, 1-789, figs. 1-289.

中村広司, 1949. マグロ類とその漁業. 竹内書房, 東京.  
1-118, figs. 1-29.

(京都大学農学部水産学教室魚類研究室

京都府舞鶴市長浜)

**Summary** The longtail tuna, *Thunnus tonggol* (Bleeker) had been known from Japan by a single specimen by the name of *T. rarus* Kishinouye (1915), which is a synonym of the former. In 1968, some 40 years after the first record, the longtail tuna were found trapped in sardine set-net at Kundatai, Wakasa Bay, Japan Sea, numbering about 1400 and

1000 on the 3rd and 24th respectively, September. The same species of tuna were caught in the set-net at Odashukuno in the same bay on the 4th of the month, which numbered 9 and measured 48.6 to 51.4 cm in fork-length. The nonrecognition of the species in Japanese waters in the past may be ascribed to the misidentification of the young of the species with those of either *T. thynnus* or *T. albacare*.

(Ichthyological Laboratory, Department of Fisheries,  
Faculty of Agriculture, Kyoto University, Maizuru,  
Kyotofu, 625, Japan)